

第三章 アセスメント

1 適切なアセスメントによる早期支援へ

(1) アセスメントと支援

第 I 章でも述べたように、「アセスメント」とは、支援の対象となる児童・生徒の情報の収集・分析を行い児童・生徒の状況を把握することです。支援計画を立て、支援を実施する際にアセスメントの結果を役立てます。

児童・生徒にとって必要な支援は、適切なアセスメントなしに実現できません。特に、多様な要因・背景が複雑に関連して起こる不登校への支援の場合には、学級担任をはじめとして、養護教諭等の他の教職員や、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）等による、多角的なアセスメントが不可欠です。

(2) 支援シートを活用した組織的な支援

支援シートとは、児童・生徒一人一人の状況を的確に把握し、当該児童・生徒の置かれた状況を関係機関で情報共有し、組織的・計画的に支援を行うことを目的として、学級担任、養護教諭、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）等を中心に学校が組織的に作成するものです。

これまでも児童・生徒の状況に合わせた様々な支援計画書等が学校現場で作成・利用されてきたところですが、一つの学年だけで利用され、上の学年に引き継がれる仕組みがなかったり、学校の中でのみ共有され、関係機関との役割分担がうまくいかなかったりする場合があるなど、一貫した支援が行われていないこともありました。

不登校には様々な要因・背景があり、教育関係者のみならず、福祉、医療等の関係機関が相互に連携、協力して、中長期的な視点で一貫した支援を行うことが求められます。また、児童・生徒の抱える背景や状況が複雑で、登校し始めても再度不登校の状態になることもあるため、小学校から高等学校までの間、進学先に進学以前の情報が引き継がれることは非常に重要です。

支援シートを活用することで、不登校児童・生徒の支援に必要な情報を集約し、それに基づく支援計画を学校内や関係機関で共通理解し、さらに、そのシートを校種間で適切に引き継ぐことによって継続的に多角的な視野に立った指導体制が構築できるようになります。また、そうすることで児童・生徒やその保護者にとっても、「担当者が変わるたびに同じことを説明しなければならない」といった負担を軽減させることが期待できます。

(3) アセスメントを活用した支援シート

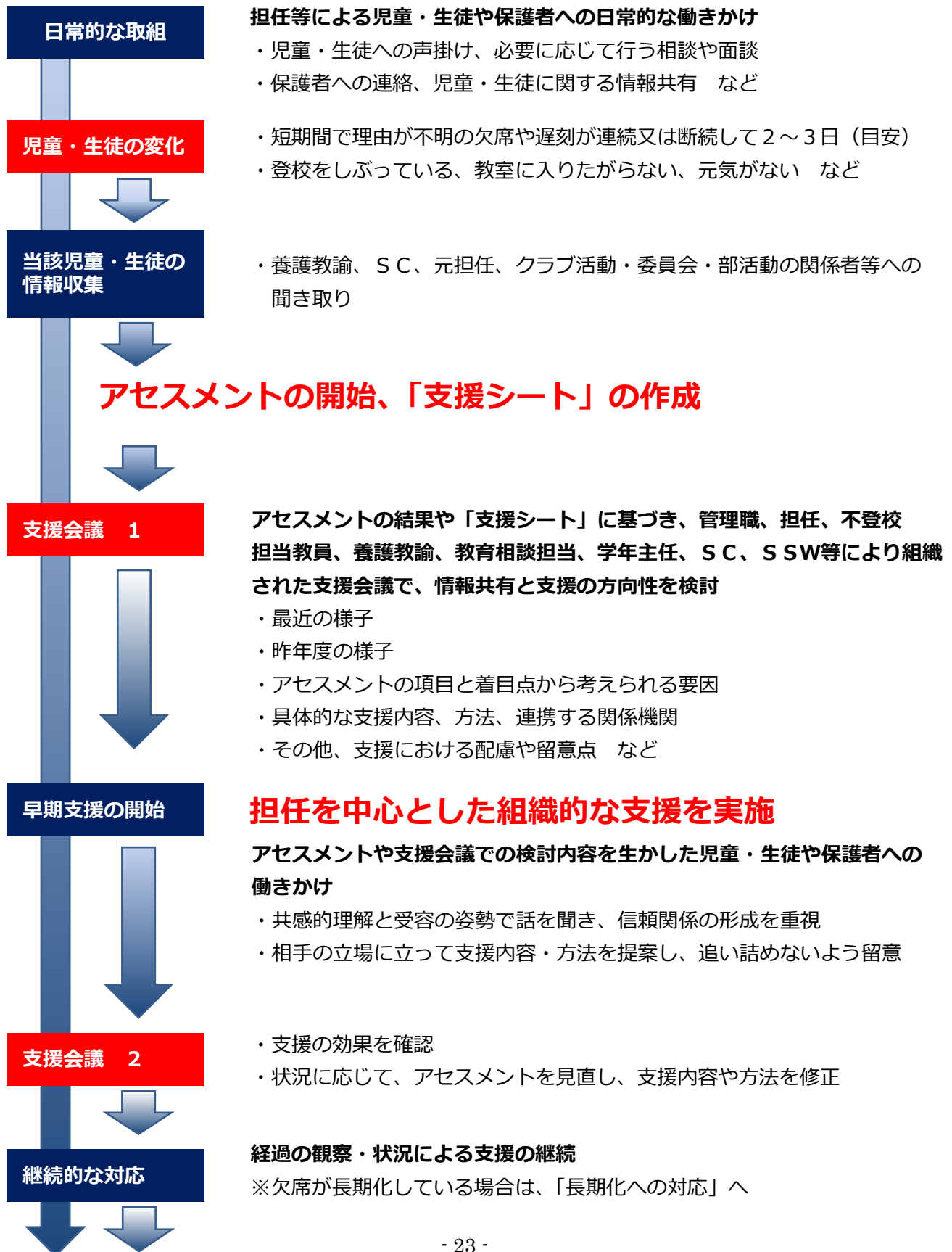
支援シートは、支援に関する情報を集約し、引き継いでいくものであるため、複数の関係者が正確な情報を共有できるようにすることが必要です。

そのため、主観的な判断を避け、客観的な事実を記載することが重要です。また、具体的な支援計画を立てる根拠となったアセスメントは、児童・生徒の状況を把握する基本的な情報となるため、複数回アセスメントを実施した場合は、その推移を記載しておくこと、児童・生徒の傾向を把握しやすくなります。

本章では、I 章で紹介した「生物・心理・社会モデル」を参考に作成した「身体・健康面」「心理面」「社会・環境面」という三つの観点からのアセスメントを活用した支援シートを紹介します。

(4) アセスメントを活用した早期支援の流れ

次の図は、アセスメントを活用した早期支援の流れを示しています。
 児童・生徒に気になる様子がみられたら、早速、その児童・生徒の情報の収集・分析を行い、その結果に基づいて支援計画を立て、支援を開始しましょう。



2 「支援シート」の作成

電子版の「支援シート」は表計算ソフトで作成します。
現在の状況・様子については、該当するものを選んでクリックすることで入力できます。

各欄に必要事項を入力します。※全ての欄に必ず入力する必要はありません。

入力の手順

- ① 氏名や学年、出席日数など、必要事項を入力する。
- ② アセスメントの三つの観点（P.4 参照）とそれぞれの着目点（P.26～28 参照）から、「現在の児童・生徒の様子」で該当するものを入力する（着目点にない特徴等は、必要に応じて手入力する。）
- ③ 支援会議等で話し合い、決定した支援内容や方法について入力する。
- ④ 保護者面談や引継ぎの資料として活用する。

支援シート

平成 31 年度 西暦 2019 作成日 2月25日

氏名	東京 太郎	性別	男	現在の学年	2	年	1	組
					1	年	2	組
						年		組
						年		組
						年		組
						年		組

入学前の前歴	○区立△小学校
進学先	

【1】 氏名や学年、出席日数など、必要事項を入力する。（欠席日数 13 日以上で黄色、30 日以上で赤色にセルが変わります。）

月	平成29 (2017)	平成30 (2018)	平成31 (2019)											合計	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
出席すべき日数	203	205	16	21	21	18	4	19	22	20	16	17	19	16	209
出席日数	195	170	10	16	18	17	4	17	20	20	16	17			155
内学級以外(※)	8	5	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0			3
欠席日数	8	35	6	5	3						0	0			19
不登校による欠席	5	31	6	5	2						0	0			16

【2】 主な対応者に○を付ける。

①学級担任	②校長	③副校長	④主幹教諭	⑤生活指導主任	⑥養護教諭	⑦特別支援教育コーディネーター	⑧その他	⑨の具体的な対応者
(○)	()	()	()	(○)	(○)	()	(○)	区の教育相談委員

利用している学校外の関係機関

①教育支援センター

クリック

		現在の状況・様子	特徴・その他	良さ・長所
身体・健康面	睡眠	朝、起きられない、授業中	保健室の利用が多くあったが、3学期に入ってから、欠席なしで登校している。朝寝坊することが多く、1校時の初めから教室にいるのは週の半分程度である。	食欲は適度にあり、バランスの良い食事ができている。午後の体調は良い。
	食事			
	運動			
	疾患 体調不良	頭痛やめまいがある、疲れや		
心理面	特別な教育的 ニーズ		数学を苦手としている。周囲に引け目を感じており、自分から仲間と関われない。	国語は得意である。読書量も多く、雑学的な知識は豊富である。慣れてくると、自分の悩んでいることをきちんと話すことができる。
	その他			
	学力 学習	学習につまずきがある、極端に嫌い		
	情緒	すぐにイライラしてしまう		
	社交性 集団行動	人前では過度に緊張する		
	自己有用感 自己肯定感	自分を否定する発言が多い、過度に		
社会・環境面	児童・生徒間の 関係		母の体調が悪く、寝ていることも多いため、本人も心配している。	同世代より、大人と話をしている方がリラックスしている。教職員との関係は良い。
	教職員との 関係			
	学校生活			
	家族関係 家庭背景	心身の不調を抱えている家族がいる、保護者と連絡が取れない		
地域での人間 関係				
その他				

【3】 P.26～28の着目点別に、該当する項目の状況・様子の「ここをクリック」を押す。

【4】 該当の項目に関する「現在の状況・様子」の例が表示される。

【5】 表示された選択項目のボタンを選ぶと、左の「現在の状況・様子」に該当する項目が入力される。

【6】 「現在の状況・様子」について、表示された項目以外に記録した方がよいと思われることがある場合、直接、文字を入力する。

【7】 「特徴・その他」「良さ・長所」については、直接、文字を入力する。

【8】 効果のあった学校の対応に○を付ける。

①(○)	②(○)	③()	④(○)	⑤(○)	⑥()	⑦()	⑧()	⑨()	⑩()	⑪()	⑫()	⑬()	⑭(○)	⑮の内容
担任の電話や家庭訪問等	担任以外の教員の声掛け	不登校対応担当教員の声掛けや電話	養護教諭の声掛け、保健室での相談	SCIによる相談	友人関係を改善するための指導	教員との関係改善	授業方法の改善、分かる授業の工夫	本人の興味・関心の高い授業や行事の取組	保健室登校など、別室での指導	登校を促す電話や家庭訪問	保護者への啓発	特別支援教室の利用	①～⑬以外	区の教育相談員が登校時に本人の状況を確認し、教職員に周知を回りコミュニケーションづくりにつなげた。

	本人	保護者
思い 願い	登校は続けたいが、授業についていくことが苦しいため、教室で授業を受けるのがつらいと感じている。	学校に遅刻せずに行ってほしいと願っている。母親の体調が悪く、朝の本人への声掛けはできないことが多い。また、学校との密な連携は難しい。父は多忙であるが協力的である。
短期 目標	朝、起きられるようにする。 得意教科である国語の自信を高める。 教職員との良い関係を維持する。	朝、登校時間に間に合うように自分で起きることができる。

【9】 保護者面談等で活用し、本人と保護者の思いや願いを記入する。

支援会議の実施日	① 6月13日	② 7月11日	③ 9月19日	④ 2月6日	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
----------	---------	---------	---------	--------	---	---	---	---	---	---	---	---

※実施日が12回を超える場合は次年度への引継ぎ事項欄に追記すること。

【10】 支援会議を行った日付を記入する。

	1学期(前期) 主な支援内容	効果	2学期(後期) 主な支援内容	効果	3学期 主な支援内容	効果
身 体 ・ 健 康 面	朝起きる時刻を決めて取り組ませる。(①)	○	朝起きられないことから体調不良はほぼ改善されたが、引き続き見守っていく。(③)	△	夜更かしの改善に向け、父親からの声掛けをお願いする。(④)	△
	欠席した日に、家庭訪問を実施する。(①)	○				
	睡眠の時間確保について、本人と話す場をつくる。(②)	△				
長 期 休 業	生活リズムが乱れないように生活リズムを整える機会をつくる。		生活リズムが乱れる前に、生活リズムの状況について確認する。			

【11】 支援会議で決定した支援内容・方法を記入する。必要に応じて、その都度加筆する。() 内に会議の回数を入れる。

【12】 学期末に、実施した支援についての効果を確認する。
○…効果が見られた
△…効果が見られなかった

	1学期(前期) 主な支援内容	効果	2学期(後期) 主な支援内容	効果	3学期 主な支援内容	効果
心 理 面	得意な国語や好きな読書など、本人が自信のあることや興味のあることについて話を聞く。(①)	○	得意なことを評価しつつ、数学など苦手意識のあることは、劣等感をもちないように支援する。(③)	○	心配なことは担任によく相談するように話し、引き続き見守っていく。(④)	○
	様々な教科の担当教員から声を掛け、良いところを認め励ます。(②)	△				
長 期 休 業	教科担任も関わり、苦手教科・数学の学習支援の機会をつくる。 読書感想文など、得意分野を伸ばせるように、支援する。					

	1学期(前期) 主な支援内容	効果	2学期(後期) 主な支援内容	効果	3学期 主な支援内容	効果
社 会 ・ 環 境 面	教職員との良好な関係を基盤にし、相談に乗る体制を継続する。(①)	○				
	委員会活動の担当教員からも、本人に声を掛け、活動の不安を軽減する。(①)	○				
	母親が不在の時は、父親にも学校の様子を伝え、連絡を取り合っていく。(①)	△				
	担任や同学年の教員と楽しく話や相談ができていたので、この状態を維持していく。(②)	○				
長 期 休 業	休業中の生活の様子を電話で確認する。					

【13】 年度末の時期に、引継ぎ事項をできるだけ詳しく、具体的に記入し、次年度の支援の資料として活用する。

[重要] 次年度への引継ぎ事項・家庭に関する引継ぎ事項

前年度より、生活リズムの乱れがあり、1学期に体調不良、自己肯定感の低下、友人関係、家族関係についての悩みなどから、欠席日数が増加した。教職員との良好な関係を基盤に早期支援を行った。
2学期以降は友人関係や家族関係の悩みが解消され、安定して学校生活を送れるようになった。SCや相談員が積極的に声を掛けたり、相談に乗ったりすることが効果的であった。国語が得意で読書が好きなので、その良さを生かすような支援が今後も重要であると思われる。
母親の体調が不安定で朝の声掛けなどが難しいので、父親と連携を取り支援する必要がある。父親は協力的であるが、多忙で連絡が取りやすいのは勤務先の昼休みである。

3 アセスメントの項目

第I章で紹介したアセスメントの三つの観点、「身体・健康面」「心理面」「社会・環境面」について、それぞれ着目点を例示しています。対象児童・生徒を観察し、「現在の状況・様子」から該当するものを選択し、支援シートに入力しましょう。

ただし、これらの観点は、重なる部分があり、どの観点に該当するのか判断が難しい場合もあります。どこに該当するのかを厳密に特定する必要はなく、重要な要因・背景を見落とさないことが大切です。

なお、各着目点における「現在の状況・様子」について考えられる要因や具体的な支援例等は、第IV章 早期支援に示しています。

身体・健康面

着目点	現在の状況・様子	
睡眠 (P.32 参照)	1	睡眠不足である
	2	寝つきが悪い
	3	朝、起きられない
	4	寝る時間が安定しない
	5	夜中に目が覚める
	6	授業中に眠ることが多い
食事 運動 (P.34 参照)	1	食欲がないことが多い
	2	朝食をとらないことがある
	3	家庭で食事がとれていない
	4	過食・拒食傾向である
	5	偏食気味である
	6	運動不足である
疾患 体調不良 (P.36 参照)	1	頭痛やめまいがある
	2	吐き気や嘔吐がある
	3	胃痛、腹痛、下痢がある
	4	アレルギー疾患（疑い含む）がある
	5	疲れや体のだるさがある
	6	部位がはっきりしない痛みがある
	7	情緒の著しい乱れがある
特別な教育的ニーズ (P.38 参照)	1	コミュニケーションが苦手である
	2	聞いて理解することが苦手である
	3	読み書き計算が苦手である
	4	人前であまり話をしない
	5	集中することが苦手である
	6	多動傾向がある
	7	感覚過敏がある
	8	過度のこだわり、興味の狭さがある

身体・健康面におけるその他の状況については P.40 を参考にしてください。

心理面

着目点	現在の状況・様子	
学 力 学 習 (P.42 参照)	1	学習につまづきがある
	2	考えることが苦手である
	3	語彙が少ない
	4	文字を書く、写すことが苦手である
	5	極端に嫌いな教科がある
	6	グループ学習が苦手である
	7	時間内に作業が終わらないことが多い
	8	ケアレスミスが増えた
情 緒 (P.44 参照)	1	すぐにイライラしてしまう
	2	怒りを爆発させることが多い
	3	緊張することが多い
	4	気分が落ち込むことが多い
	5	泣いてしまうことが多い
	6	自分の気持ちを抑えすぎる
	7	表情の変化がほとんどない
社交性 集団行動 (P.46 参照)	1	人と関わるのが苦手である
	2	集団行動が苦手である
	3	人前では過度に緊張する
	4	一人でいることが増えた
	5	人に暴言を吐くことが多い
	6	自分勝手な行動が多い
自己有用感 自己肯定感 (P.48 参照)	1	人から褒められたり感謝されたりする場面があまりない
	2	人のために行動することがない
	3	自分を否定する発言が多い
	4	自分の意見を言うことができない
	5	過度に人に気をつかう
関心 意欲 (P.50 参照)	1	なんでも面倒くさがる
	2	好きなこと、熱中していることがない
	3	すぐに飽きてしまう
	4	興味をもつことの範囲が狭い
過去の経験 (P.52 参照)	1	体調不良、ひどく疲れている
	2	悪夢や夜驚（やきょう）がある
	3	気分の浮き沈みがある
	4	無力感や恐怖心がある
	5	ものごとから逃げたがる
	6	自己嫌悪や自責の念がある

心理面におけるその他の状況については P.54 を参考にしてください。

社会・環境面

着目点	現在の状況・様子	
児童・生徒間の関係 (P.56 参照)	1	いじめの訴えがある・いじめの情報がある
	2	対立がある
	3	悪口・陰口を言われている
	4	孤立している
	5	気まずくなっている
	6	相談できる友達がいない
教職員との関係 (P.58 参照)	1	教職員に反発している
	2	教職員を避ける
	3	教職員に対する緊張が見られる
	4	教職員の前では本心を見せない
学校生活 (P.60 参照)	1	校則になじめていない
	2	学校になじめていない
	3	委員会を欠席する
	4	クラブ活動・部活動を欠席する
	5	通学に時間がかかる
家族関係 家庭背景 (P.62 参照)	1	保護者に反発している
	2	家族の話をほとんどしない
	3	心身の不調を抱えている家族がいる
	4	保護者や兄弟姉妹が過度に厳しい
	5	家庭内での変化が激しく、安定していない
	6	家庭が経済的な厳しさを抱えている
	7	虐待の痕跡が見られる
	8	保護者と連絡が取れない
地域での人間関係 (P.64 参照)	1	非行グループとの交流がある
	2	繁華街など危険な場所に行っている
	3	地域の人などとトラブルがある
	4	SNS等での危険な交流がある

社会・環境面におけるその他の状況については P.66 を参考にしてください。

4 支援会議の開催

不登校の要因や背景は多様・複雑であることから個々の事案に対して、チーム学校としての協働によるアセスメントと支援が必要です。

(1) 組織対応のポイント

対象児童・生徒の状況や事案に応じて支援チームのメンバーを構成し、それぞれの役割や関わりを確認し、定期的に情報交換を行いましょ。う。

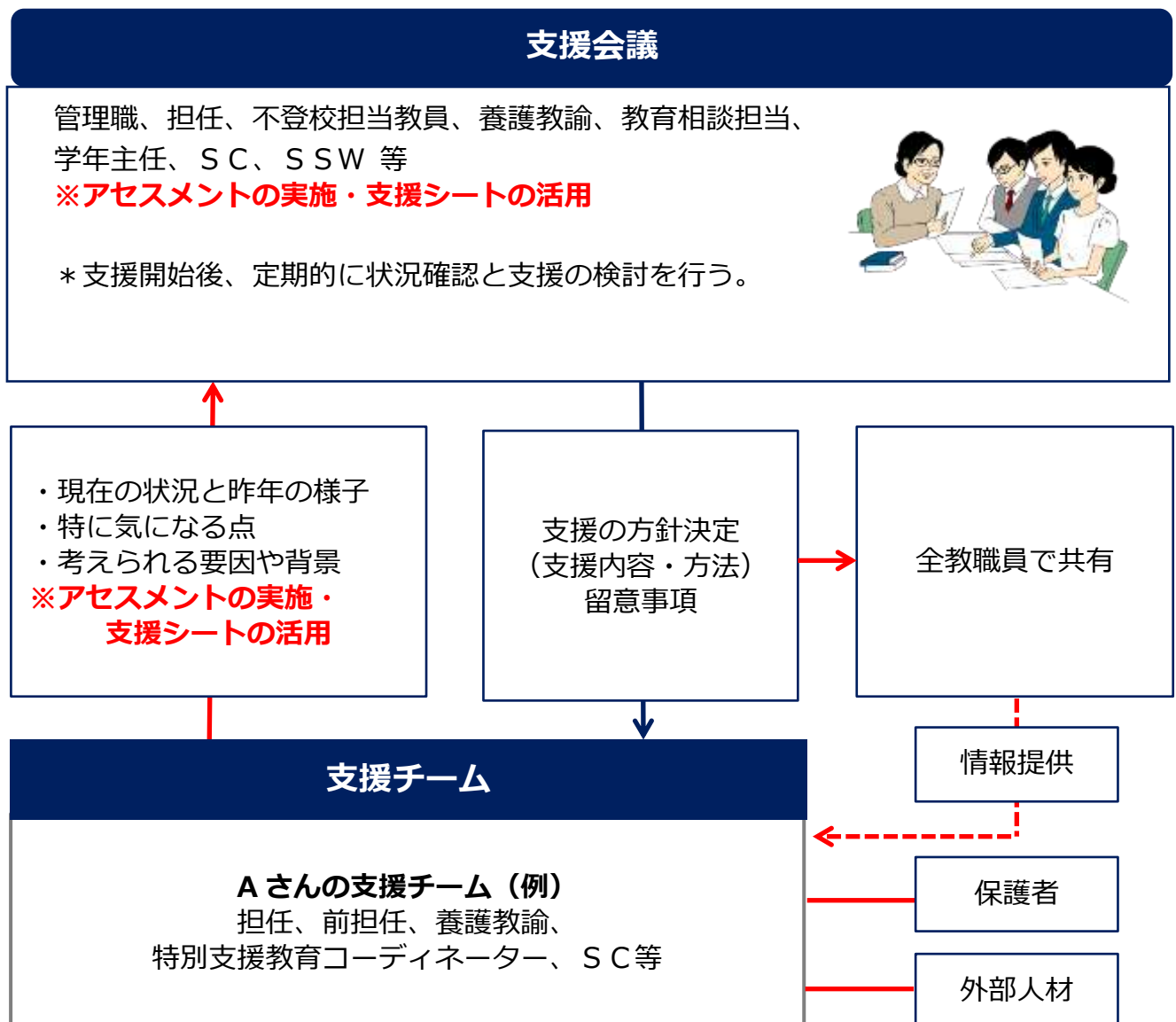
また、関係機関との連携をコーディネートする中心的な役割を担う教員を決めておきましょう。



(2) 支援シートの活用

支援シートへの欠席状況などの記入とともに、関係ある教員などから最近の様子など多面的に情報を集めましょ。う。

(3) アセスメントと支援シートを活用した支援会議の実施



(4) 関係機関と連携した支援

次の図は、P.23 で示した「アセスメントを活用した早期支援の流れ」に、関係機関と連携した支援の取組を示しています。

対象の児童・生徒の状況によって、連携して支援すべき関係機関は異なります。支援会議で「関係機関との連携が必要である」と判断された場合は、管理職を通じて協力を要請し、情報の共有とともに支援の方向性を確認した上で、連携した支援を開始しましょう。

また、関係機関の職員が当該児童・生徒と面談等を行った際に得た情報等は、確実に学校と共有し、支援による効果とその後の支援の在り方について、継続して検討していくことが必要です。

